

追悼・復興祈り「声明」

東京で薬師寺まほろば塾 僧侶ら力強く

東京・有楽町よみうりホールで9日開催された「薬師寺まほろば塾」の東京塾（法相宗大本山薬師寺 奈良市）、読売新聞社主催）。東日本大震災から7年となるのを前に、同寺管主の村上太胤塾長らが法要を営み、犠牲者らの追悼と被災地の復興を祈願した。女優の松坂慶子さんとの対談では、万葉集の魅力などを語り合った。（西田大智、岡本久美子）

村上塾長は、平昌五輪のスピードスケート女子5



「薬師寺まほろば塾」で営まれた東日本大震災などの追悼、復興祈願法要（東京都千代田区で）＝松田賢一撮影

00歳で、金メダルの小平奈緒選手が、銀メダルの地元・韓国選手と抱き合い、互いをたたえた姿に触れ、「あの思いやりこそが、まさにまほろばの心。私たちも、国境を超えて全ての人々に平和の祈りを伝えていきたい」とあいさつした。

法要では、村上塾長ら同寺の僧侶7人が着座。3月に同寺で営まれる「花会式」の作法にのっとり、独特の抑揚で唱える「声明」を披露。「南無薬（ナムヤ）」と仏の名前を力強く響かせる節回しに、会場の約900人が聴き入った。

東京都板橋区の広告企画

業佐々木司郎さん（66）は「初めて聞いたが、叫ぶような声の大きさに驚いた。父が宮城出身だけに、復興への願いが届くよう祈った」と話した。埼玉県所沢市の会社員松本清美さん（51）も「普段の生活に追われていると震災の記憶は薄れがちだが、法要で当時を振り返ることができた」と語った。

対談では、松坂さんと村上塾長が「『万葉の里』奈良に誘われて」をテーマに語り合った。松坂さんは、古代に詠まれた「万葉歌」に興味を持ち、奈良をよく訪れるようになったといひ、「1300年前の歌なのに、その人の気持ち伝わってくるような率直な心や思いにあふれ、歌に生命力がある」と魅力を紹介した。

村上塾長は、遣唐使船で唐に渡り、帰国を果たせな

かった阿倍仲麻呂が、奈良の風景を思い浮かべて詠んだ歌を引き合いに出して「朝のお勤めの後に春日山を見ると、仲麻呂の家族や

先祖への思いをしみじみと感じる」と話した。神奈川県藤沢市の地方公務員佐武隆一さん（51）は「松坂さんの話を聞いて、

万葉の歌はやっぱりいいなと思った。持統天皇をはじめ女性たちが輝いていた時代に、思いをはせることができた」と感激していた。